

官報 号外

昭和六十二年十一月六日

○第百十回国 衆議院会議録 第一号(一)

昭和六十二年十一月六日(金曜日)

議事日程 第一号

昭和六十二年十一月六日

午前十時開議

- 第一 議席の指定
- 第二 会期の件

○本日の会議に付した案件

日程第一 議席の指定

日程第二 会期の件

災害対策を樹立するため委員四十人よりなる特別委員会、公職選挙法改正に関する調査を行うため委員二十五人よりなる特別委員会、石炭に関する対策を樹立するため委員二十五人よりなる特別委員会、物価問題等に関する対策を樹立するため委員二十五人よりなる特別委員会、交通安全に関する総合対策樹立のため委員二十五人よりなる特別委員会及び沖繩及び北方問題に関する対策樹立のため委員二十五人よりなる特別委員会を設置するの件(議長発議)

日米安全保障条約及び自衛隊等国の安全保障に関する諸問題を調査し、その対策を樹立するため委員二十五人よりなる安全保障特別委員会を設置するの件(議長発議)

内閣総理大臣の指名

午後零時二分開議

○議長(原健三郎君) 諸君、第百十回国会は本日をもって召集されました。これより会議を開きます。

日程第一 議席の指定

○議長(原健三郎君) 衆議院規則第十四条によりまして、諸君の議席は、議長において、ただいまの仮議席のとおりに指定いたします。

日程第二 会期の件

○議長(原健三郎君) 日程第二、会期の件につきお諮りいたします。今回の臨時会の会期は、十一月十一日まで六日間といたしたいと思います。これに御異議はございませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○議長(原健三郎君) 御異議なしと認めます。よって、会期は六日間とするに決しました。

特別委員会設置の件

○議長(原健三郎君) 特別委員会の設置につきお諮りいたします。災害対策を樹立するため委員四十人よりなる特別委員会、公職選挙法改正に関する調査を行うため委員二十五人よりなる特別委員会、交通安全に関する総合対策樹立のため委員二十五人よりなる特別委員会、石炭に関する対策を樹立するため委員二十五人よりなる特別委員会、物価問題等に関する対策を樹立するため委員二十五人よりなる特別委員会、沖繩及び北方問題に関する対策を樹立するため委員二十五人よりなる特別委員会、内閣総理大臣の指名

昭和六十二年十一月六日 衆議院会議録第一号(一) 議席の指定 会期の件 特別委員会設置の件 内閣総理大臣の指名

十五人よりなる特別委員会、石炭に関する対策を樹立するため委員二十五人よりなる特別委員会、物価問題等に関する対策を樹立するため委員二十五人よりなる特別委員会、交通安全に関する総合対策樹立のため委員二十五人よりなる特別委員会、

沖繩及び北方問題に関する対策樹立のため委員二十五人よりなる特別委員会を設置いたしました。これに御異議はございませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○議長(原健三郎君) 御異議なしと認めます。よって、そのとおり決しました。

次に、日米安全保障条約及び自衛隊等国の安全保障に関する諸問題を調査し、その対策を樹立するため委員二十五人よりなる安全保障特別委員会を設置したいと存じます。これに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長(原健三郎君) 起立多数。よって、そのとおり決しました。ただいま議決されました七特別委員会の委員は追って指名いたします。

○議長(原健三郎君) この際、暫時休憩いたします。午後零時五分休憩

午後三時三分開議

○議長(原健三郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

○議長(原健三郎君) 御報告いたします。

本日、中曾根内閣総理大臣から、内閣は総辞職することに決定した旨の通知書を受領いたしました。

内閣総理大臣の指名

○議長(原健三郎君) これより内閣総理大臣の指名を行います。

この手続は、衆議院規則及び先例によることといたします。衆議院規則第十八条第一項によりまして、記名投票で指名される者を定めることとなっており、お手元に配付の投票用紙に、指名される者の氏名を記載し、かつ、投票者の氏名を記載の上、木札の名刺を添えて持参されることを望みます。

これより点呼を命じます。

〔参事氏名を点呼〕

〔各員投票〕

○議長(原健三郎君) 投票漏れはありませんか。投票漏れなしと認めます。投票箱閉鎖。

これより名刺及び投票の計算並びに投票の点検を命じます。

〔参事名刺及び投票を計算、投票を点検〕

○議長(原健三郎君) 投票総数四百九十八。名刺の数もこれと符合しております。

本投票の過半数は二百五十であります。

投票中、被指名者の記載してないものが一票あります。これは当然無効であります。

投票の結果を事務総長から報告させます。

〔事務総長報告〕

〔拍手〕 二百九十九点 竹下 登君

〔拍手〕 百四十五点 土井たか子君

〔拍手〕 二十七点 塚本 三郎君

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一) 内閣総理大臣の指名

○議長(原健三郎君) 右の結果、竹下登君を、衆議院規則第十八条第二項により、本院において内閣総理大臣に指名することに決しました。

〔拍手〕

竹下登君に投票した者の氏名

安倍晋太郎君	阿部 文男君
相沢 英之君	逢沢 一郎君
愛知 和男君	愛野興一郎君
青木 正久君	赤城 宗徳君
麻生 太郎君	天野 公義君
天野 光晴君	甘利 明君
新井 将敬君	有馬 元治君
栗屋 敏信君	井出 正一君
井上 喜一君	伊東 正義君
伊藤宗一郎君	伊吹 文明君
池田 行彦君	石井 一君
石川 要三君	石破 茂君
石橋 一弥君	石原慎太郎君
石渡 照久君	糸山英太郎君
稲垣 実男君	稲葉 修君
稲村 利幸君	今井 勇君
今枝 敬雄君	宇野 宗佑君
上草 義輝君	上村千一郎君
魚住 汎英君	白井日出男君
内海 英男君	浦野 然興君
江口 一雄君	江崎 真澄君
江藤 隆美君	衛藤征士郎君
榎本 和平君	遠藤 武彦君

小川 元君	小此木彦三郎君
小里 貞利君	小沢 一郎君
小澤 潔君	小沢 辰男君
小淵 恵三君	尾形 智矩君
尾身 幸次君	越智 伊平君
越智 通雄君	大石 千八君
大石 正光君	大島 理森君
大塚 雄司君	大坪健一郎君
大野 明君	大野 功統君
大原 一三君	大村 襄治君
太田 誠一君	岡島 正之君
奥田 敬和君	奥田 幹生君
奥野 誠亮君	加藤 紘一君
加藤 卓二君	加藤 六月君
鹿野 道彦君	海部 俊樹君
柿澤 弘治君	梶山 静六君
粕谷 茂君	片岡 清一君
片岡 武司君	金子 一義君
金子原二郎君	金丸 信君
亀井 静香君	亀井 善之君
亀岡 高夫君	唐沢俊二郎君
川崎 二郎君	瓦 力君
木部 佳昭君	木村 守男君
木村 義雄君	菊池福治郎君
岸田 文武君	北川 石松君
北川 正恭君	北口 博君
北村 直人君	久間 章生君
久野 忠治君	工藤 巖君
鯨岡 兵輔君	熊谷 弘君
熊川 次男君	倉成 正君
栗原 祐幸君	小泉純一郎君
小坂善太郎君	小坂徳三郎君

小杉 隆君	小宮山重四郎君
古賀 誠君	古賀 正浩君
後藤田正晴君	河野 洋平君
河本 敏夫君	高村 正彦君
鴻池 祥肇君	近藤 鉄雄君
近藤 元次君	左藤 恵君
佐藤 一郎君	佐藤 静雄君
佐藤 信二君	佐藤 敬夫君
佐藤 隆君	佐藤 文生君
齋藤 邦吉君	齋藤斗志二君
桜井 新君	坂本三十次君
笹川 堯君	櫻内 義雄君
志賀 節君	笹山 登生君
椎名 素夫君	自見庄三郎君
堀崎 潤君	塩川正十郎君
白川 勝彦君	島村 宜伸君
杉山 憲夫君	杉浦 正健君
鈴木 恒夫君	鈴木 善幸君
砂田 重民君	鈴木 宗男君
園田 博之君	関谷 勝嗣君
田澤 吉郎君	染谷 誠君
田中 龍夫君	田名部匡省君
田中 直紀君	田中 直紀君
田邊 國男君	田原 隆君
田村 元君	田村 良平君
高鳥 修君	高橋 一郎君
高橋 辰夫君	竹内 黎君
竹下 登君	竹中 修一君
武部 勤君	武村 正義君
谷 洋一君	谷垣 禎一君
谷川 和穂君	玉生 孝久君
玉沢徳一郎君	近岡理一郎君

津島 雄二君	塚原 俊平君
月原 茂昭君	戸井田三郎君
戸沢 政方君	戸塚 進也君
渡海紀三朗君	東家 嘉幸君
友納 武人君	虎島 和夫君
中尾 栄一君	中川 昭一君
中川 秀直君	中島源太郎君
中島 衛君	中曾根康弘君
中西 啓介君	中村喜四郎君
中村正三郎君	中村 靖君
中山 太郎君	中山 利生君
中山 成彬君	中山 正暉君
長野 祐也君	二階 俊博君
二階堂 進君	丹羽 兵助君
丹羽 雄哉君	西岡 武夫君
西田 司君	額賀福志郎君
野田 毅君	野中 英二君
野中 広務君	野呂 昭彦君
野呂田芳成君	羽田 孜君
葉梨 信行君	橋本龍太郎君
長谷川 峻君	畑 英次郎君
鳩山 邦夫君	鳩山由紀夫君
浜田 幸一君	浜田卓二郎君
浜野 剛君	林 大幹君
林 義郎君	原田 憲君
原田昇左右君	東 力君
平泉 涉君	平沼 赳夫君
平林 鴻三君	深谷 隆司君
吹田 悦君	福島 謙二君
福田 赳夫君	福田 一君
福永 健司君	藤尾 正行君
藤波 孝生君	藤本 孝雄君

昭和六十二年十一月六日 衆議院会議録第一号(一) 内閣総理大臣の指名

二田 孝治君	船田 元君
古屋 亨君	保利 耕輔君
穂積 良行君	細田 吉藏君
堀内 光雄君	堀之内久男君
前田 武志君	牧野 隆守君
増岡 博之君	町村 信孝君
松田 岩夫君	松田 九郎君
松永 光君	松野 幸泰君
松野 頼三君	松本 十郎君
三ツ林弥太郎君	三原 朝彦君
三塚 博君	水野 清君
宮崎 茂一君	宮里 松正君
宮澤 喜一君	宮下 創平君
武藤 嘉文君	村井 仁君
村岡 兼造君	村上誠一郎君
村田敬次郎君	村山 達雄君
持永 和見君	粟山 明君
森 清君	森 美秀君
森 喜朗君	森下 元晴君
森田 一君	谷津 義男君
保岡 興治君	柳沢 伯夫君
山口 敏夫君	山崎 拓君
山崎平八郎君	山下 元利君
山下 徳夫君	山中 貞則君
山村新治郎君	山本 幸雄君
与謝野 馨君	若林 正俊君
綿貫 民輔君	渡部 恒三君
渡辺 栄一君	渡辺 紘三君
渡辺 省一君	渡辺 秀央君
渡辺美智雄君	佐藤 孝行君
原 健三郎君	

土井たか子君に投票した者の氏名

阿部未喜男君	五十嵐広三君
井上 泉君	井上 一成君
井上 善方君	伊藤 茂君
伊藤 忠治君	池端 清一君
石橋 大吉君	石橋 政嗣君
稲葉 誠一君	岩垂寿喜男君
上田 卓三君	上田 哲君
上田 利正君	上原 康助君
江田 五月君	小川 国彦君
小澤 克介君	小野 信一君
緒方 克陽君	大出 俊君
大原 亨君	岡田 利春君
奥野 一雄君	加藤 万吉君
角屋堅次郎君	金子 みつ君
川崎 寛治君	川俣健二郎君
河上 民雄君	河野 正君
菅 直人君	木間 章君
串原 義直君	小林 恒人君
上坂 昇君	左近 正男君
佐藤 観樹君	佐藤 敬治君
佐藤 徳雄君	坂上 富男君
沢田 広君	沢藤礼次郎君
沢沢 利久君	清水 勇君
城地 豊司君	新村 勝雄君
新盛 辰雄君	関山 信之君
田口 健二君	田中 恒利君
田邊 誠君	田並 胤明君
高沢 寅男君	竹内 猛君
辻 一彦君	戸田 菊雄君
土井たか子君	中沢 健次君
中西 續介君	中村 茂君

中村 正男君	永井 孝信君
野口 幸一君	野坂 浩賢君
馬場 昇君	浜西 鉄雄君
早川 勝君	広瀬 秀吉君
細谷 治嘉君	堀 昌雄君
前島 秀行君	松前 仰君
三野 優美君	水田 稔君
武藤 山治君	村山 喜一君
村山 富市君	安井 吉典君
安田 修三君	山口 鶴男君
山下入洲夫君	山花 貞夫君
吉原 米治君	渡部 行雄君
浅井 美幸君	新井 彬之君
有島 重武君	井上 和久君
池田 克也君	石田幸四郎君
市川 雄一君	遠藤 和良君
小川新一郎君	大久保直彦君
大野 潔君	大橋 敏雄君
近江巳記夫君	長田 武士君
鍛冶 清君	貝沼 次郎君
神崎 武法君	木内 良明君
草川 昭三君	草野 威君
小谷 輝二君	榊藤 恒夫君
斎藤 節君	坂井 弘一君
坂口 力君	柴田 弘君
鈴木 康雄君	竹入 義勝君
竹内 勝彦君	武田 一夫君
玉城 栄一君	鳥居 一雄君
中村 慶君	西中 清君
沼川 洋一君	橋本 文彦君
春田 重昭君	日笠 勝之君
平石磨作太郎君	伏木 和雄君

塚本三郎君に投票した者の氏名

伏屋 修治君	藤原 房雄君
二見 伸明君	冬柴 鉄三君
古川 雅司君	水谷 弘君
宮地 正介君	森田 景一君
森本 晃司君	矢追 秀彦君
矢野 絢也君	数仲 義彦君
山田 英介君	吉井 光照君
吉浦 忠治君	渡部 一郎君
阿部 昭吾君	橋崎弥之助君
多賀谷真稔君	
安倍 基雄君	青山 丘君
伊藤 英成君	小沢 貞孝君
大矢 卓史君	岡田 正勝君
春日 一幸君	川端 達夫君
河村 勝君	神田 厚君
木下敬之助君	北橋 健治君
小沢 正義君	佐々木良作君
田中 慶秋君	滝沢 幸助君
玉置 一弥君	塚田 延充君
塚本 三郎君	中野 寛成君
中村 正雄君	永末 英一君
西村 章三君	林 保夫君
吉田 之久君	米沢 隆君
和田 一仁君	

宮本顯治君に投票した者の氏名

安藤 巖君	石井 郁子君
岩佐 恵美君	浦井 洋君
岡崎万寿秀君	金子 満広君
経塚 幸夫君	工藤 晃君
児玉 健次君	佐藤 祐弘君
柴田 睦夫君	瀬長亀次郎君

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一) 朗読を省略した議長の報告 第九回国会閉会中審査報告書

田中美智子君 辻 第一君
 寺前 巖君 中路 雅弘君
 中島 武敏君 野間 友一君
 東中 光雄君 藤田 スミ君
 藤原ひろ子君 正森 成二君
 松本 善明君 村上 弘君
 矢島 恒夫君 山原健二郎君

投票者の氏名のみを記載したもの
 田川 誠一君

○議長(原健三郎君) 本日は、これにて散会いたします。
 午後三時三十七分散会

○朗読を省略した議長の報告

(報告書受領)

一、去る十月十三日、内閣を経由して郵政大臣唐沢俊二郎君から、郵便法第九十三条第四項の規定に基づき昭和六十一年度郵便事業の損益計算等に関する報告書を受領した。
 一、去る十月二十九日、内閣から次の報告書を受領した。
 昭和六十一年度第一・四半期における予算使用の状況
 一、去る十月三十日、内閣から次の報告書を受領した。
 昭和六十一年度第一・四半期における国庫の状況
 (常任委員辞任及び補欠選任)
 一、去る九月二十五日、議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。

内閣委員

辞任
 瀧池 祥肇君 補欠
 河本 敏夫君
 環境委員
 辞任
 河本 敏夫君 補欠
 大矢 卓史君

一、去る十月二十日、議長において、次のとおり常任委員の辞任を許可し、その補欠を指名した。
 通信委員

辞任
 佐藤 祐弘君 補欠
 東中 光雄君 東中 光雄君
 佐藤 祐弘君
 議院運営委員
 補欠
 東中 光雄君 佐藤 祐弘君
 佐藤 祐弘君 東中 光雄君

第九回国会閉会中審査報告書

行政機構並びにその運営に関する件等閉会中審査報告書
 一 行政機構並びにその運営に関する件
 二 恩給及び法制一般に関する件
 三 公務員の制度及び給与に関する件
 四 栄典に関する件
 右各件は審査を終了するに至らなかつた。
 右報告する。
 昭和六十二年十一月五日
 衆議院議長 原 健三郎殿
 内閣委員長 石川 要三

地方自治法の一部を改正する法律案等閉会中審査報告書
 一 地方自治法の一部を改正する法律案(内閣提出、第九八回国会閉会中審査報告書第五号)
 二 留置施設法案(内閣提出、第九八回国会閉会中審査報告書第九号)
 三 地方自治に関する件
 四 地方財政に関する件
 五 警察に関する件
 六 消防に関する件
 右各件は審査を終了するに至らなかつた。
 右報告する。
 昭和六十二年十一月五日
 衆議院議長 原 健三郎殿

刑事施設法案等閉会中審査報告書
 一 刑事施設法案(内閣提出、第九八回国会閉会中審査報告書第九号)
 二 刑事施設施行法案(内閣提出、第九八回国会閉会中審査報告書第九号)
 三 裁判所の司法行政に関する件
 四 法務行政及び検察行政に関する件
 五 国内治安及び人権擁護に関する件
 右各件は審査を終了するに至らなかつた。
 右報告する。
 昭和六十二年十一月五日
 衆議院議長 原 健三郎殿

右件は審査を終了するに至らなかつた。
 右報告する。
 昭和六十二年十一月五日
 外務委員長 山口 敏夫
 衆議院議長 原 健三郎殿

国の会計に関する件等閉会中審査報告書
 一 国の会計に関する件
 二 税制に関する件
 三 関税に関する件
 四 金融に関する件
 五 証券取引に関する件
 六 外国為替に関する件
 七 国有財産に関する件
 八 専売事業に関する件
 九 印刷事業に関する件
 一〇 造幣事業に関する件
 右各件は審査を終了するに至らなかつた。
 右報告する。
 昭和六十二年十一月五日
 大蔵委員長 池田 行彦
 衆議院議長 原 健三郎殿

義務教育諸学校等の女子教育職員及び医療施設、社会福祉施設等の看護婦、保母等の育児休業に関する法律の一部を改正する法律案等閉会中審査報告書
 一 義務教育諸学校等の女子教育職員及び医療施設、社会福祉施設等の看護婦、保母等の育児休業に関する法律の一部を改正する法律案(馬場昇君外一名提出、第九七回国会衆議院第四号)
 二 義務教育諸学校施設費国庫負担法の一部を改

正する法律案(沢藤礼次郎君外一名提出、衆法第三号)

三 学校教育法の一部を改正する法律案(佐藤徳雄君外一名提出、衆法第四号)

四 学校教育法等の一部を改正する法律案(中西續介君外一名提出、衆法第五号)

五 公立幼稚園の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律案(中西續介君外一名提出、衆法第六号)

六 公立の障害児教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準等に関する法律案(馬場昇君外一名提出、衆法第七号)

七 文教行政の基本施策に関する件

八 学校教育に関する件

九 社会教育に関する件

一〇 体育に関する件

一一 学術研究及び宗教に関する件

一二 国際文化交流に関する件

一三 文化財保護に関する件

右各件は審査を終了するに至らなかつた。

昭和三十二年十一月五日

文教委員長 愛知 和男

衆議院議長 原 健三郎殿

(内閣提出、第百八回国会衆法第九〇号)

四 北海道旧土人保護法及び旭川市旧土人保護地処分法の一部を改正する法律案(戸井田三郎君外四名提出、第百七回国会衆法第七号)

五 雇用対策法の一部を改正する法律案(村山富市君外六名提出、第百八回国会衆法第七号)

六 雇用保険法の一部を改正する法律案(池端清一君外六名提出、第百八回国会衆法第八号)

七 雇用保険法に基づく失業給付等についての臨時特例に関する法律案(中沢健次君外六名提出、第百八回国会衆法第九号)

八 短期労働者及び短時間労働者の保護に関する法律案(永井孝信君外六名提出、第百八回国会衆法第一〇号)

九 厚生関係の基本施策に関する件

一〇 労働関係の基本施策に関する件

一一 社会保障制度、医療、公衆衛生、社会福祉及び人口問題に関する件

一二 労使関係、労働基準及び雇用・失業対策に関する件

右各件は審査を終了するに至らなかつた。

昭和三十二年十一月五日

社会労働委員長 堀内 光雄

衆議院議長 原 健三郎殿

三 農林水産物に関する件

四 農林水産業団体に関する件

五 農林水産金融に関する件

六 農林漁業災害補償制度に関する件

右各件は審査を終了するに至らなかつた。

昭和三十二年十一月五日

農林水産委員長 玉沢徳一郎

衆議院議長 原 健三郎殿

官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律の一部を改正する法律案等閉会中審査報告書

一 官公需についての中小企業者の受注の確保に関する法律の一部を改正する法律案(二見伸明君外四名提出、第百八回国会衆法第一八号)

二 下請代金支払遅延等防止法の一部を改正する法律案(二見伸明君外四名提出、第百八回国会衆法第一九号)

三 通商産業の基本施策に関する件

四 中小企業に関する件

五 資源エネルギーに関する件

六 特許及び工業技術に関する件

七 経済の計画及び総合調整に関する件

八 私的独占の禁止及び公正取引に関する件

海上保安庁の留置施設に関する法律案等閉会中審査報告書

一 海上保安庁の留置施設に関する法律案(内閣提出、第百八回国会衆法第九九号)

二 陸運に関する件

三 海運に関する件

四 航空に関する件

五 港湾に関する件

六 海上保安に関する件

七 観光に関する件

八 気象に関する件

右各件は審査を終了するに至らなかつた。

昭和三十二年十一月五日

運輸委員長 鹿野 道彦

衆議院議長 原 健三郎殿

通信行政に関する件等閉会中審査報告書

一 通信行政に関する件

二 郵政事業に関する件

三 郵政監察に関する件

四 電気通信に関する件

五 電波監理及び放送に関する件

右各件は審査を終了するに至らなかつた。

昭和三十二年十一月五日

通信委員長 深谷 隆司

衆議院議長 原 健三郎殿

中水道の整備の促進に関する法律案(伏木和中水道の整備の促進に関する法律案等閉会中審査報告書

一 中水道の整備の促進に関する法律案(伏木和中水道の整備の促進に関する法律案等閉会中審査報告書

中水道の整備の促進に関する法律案(伏木和中水道の整備の促進に関する法律案等閉会中審査報告書

中水道の整備の促進に関する法律案(伏木和中水道の整備の促進に関する法律案等閉会中審査報告書

中水道の整備の促進に関する法律案(伏木和中水道の整備の促進に関する法律案等閉会中審査報告書

中水道の整備の促進に関する法律案(伏木和中水道の整備の促進に関する法律案等閉会中審査報告書

中水道の整備の促進に関する法律案(伏木和中水道の整備の促進に関する法律案等閉会中審査報告書

中水道の整備の促進に関する法律案(伏木和中水道の整備の促進に関する法律案等閉会中審査報告書

中水道の整備の促進に関する法律案(伏木和中水道の整備の促進に関する法律案等閉会中審査報告書

昭和六十二年十一月六日 衆議院会議録第一号(一)

第百九回国会閉会中審査報告書

物価問題等に関する件閉会中審査報告書

一 物価問題等に関する件
右件は審査を終了するに至らなかつた。
右報告する。

昭和六十二年十一月五日

物価問題等に関する特別委員長 村山 喜一

衆議院議長 原 健三郎殿

交通安全対策に関する件閉会中審査報告書

一 交通安全対策に関する件
右件は審査を終了するに至らなかつた。
右報告する。

昭和六十二年十一月五日

交通安全対策特別委員長 新井 彬之

衆議院議長 原 健三郎殿

沖繩及び北方問題に関する件閉会中審査報告書

一 沖繩及び北方問題に関する件
右件は審査を終了するに至らなかつた。
右報告する。

昭和六十二年十一月五日

沖繩及び北方問題に関する特別委員長 稲葉 誠一

衆議院議長 原 健三郎殿

国の安全保障に関する件閉会中審査報告書

一 国の安全保障に関する件
右件は審査を終了するに至らなかつた。
右報告する。

昭和六十二年十一月五日

衆議院議長 原 健三郎殿

昭和六十二年十一月五日

安全保障特別委員長 大村 襄治

衆議院議長 原 健三郎殿

召集に応じた議員の氏名

北海道

第一区選出

町村 信孝君

佐藤 静雄君

箕輪 登君

第二区選出

五十嵐広三君

上草 義輝君

第三区選出

奥野 一雄君

阿部 文男君

第四区選出

高橋 辰夫君

池端 清一君

渡辺 省一君

第五区選出

中川 昭一君

武部 勤君

岡田 利春君

青森県

第一区選出

竹中 修一君

津島 雄二君

第二区選出

木村 守男君

竹内 黎一君

岩手県

第一区選出

玉沢徳一郎君

工藤 巖君

第二区選出

小沢 一郎君

沢藤礼次郎君

宮城県

第一区選出

三塚 博君

伊藤宗一郎君

戸田 菊雄君

第二区選出

大石 正光君

長谷川 峻君

秋田県

第一区選出

野呂田芳成君

佐藤 敬治君

第二区選出

村岡 兼造君

川俣健二郎君

山形県

第一区選出

鹿野 道彦君

遠藤 武彦君

第二区選出

加藤 紘一君

阿部 昭吾君

福島県

第一区選出

亀岡 高夫君

佐藤 徳雄君

栗山 明君

渡部 恒三君

穂積 良行君

渡部 行雄君

第三区選出

田中 直紀君

上坂 昇君

茨城県

第一区選出

中山 利生君

葉梨 信行君

第二区選出

梶山 静六君

塚原 俊平君

第三区選出

中村喜四郎君

二見 伸明君

赤城 宗徳君

栃木県

第一区選出

渡辺美智雄君

広瀬 秀吉君

第二区選出

藤尾 正行君

武藤 山治君

神田 厚君

群馬県

第一区選出

尾身 幸次君

熊川 次男君

伊東 正義君

滝沢 幸助君

齋藤 邦吉君

額賀福志郎君

塚田 延充君

城地 豊司君

丹羽 雄哉君

竹内 猛君

船田 元君

稲葉 誠一君

稲村 利幸君

水谷 弘君

田邊 誠君

昭和六十二年十一月六日 衆議院会議録第一号(一)

第百九回国会閉会中審査報告書

召集に応じた議員の氏名

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一) 召集に依じた議員の氏名

八

<p>第二区選出 中島源太郎君 谷津 義男君</p> <p>第三区選出 福田 赳夫君 山口 鶴男君</p> <p>埼玉県 第一区選出 松永 光君 小川新一郎君</p> <p>第二区選出 山口 敏夫君 宮地 正介君</p> <p>第三区選出 加藤 卓二君 田並 胤明君</p> <p>第四区選出 野中 英二君 山田 英介君</p> <p>第五区選出 福永 健司君 和田 一仁君</p> <p>千葉県 第一区選出 白井日出男君 鳥居 一雄君 柴田 睦夫君</p> <p>第二区選出 水野 清君 小川 国彦君</p> <p>第三区選出 浜田 幸一君</p>	<p>第一区選出 小宮山重四郎君 矢島 恒夫君</p> <p>第二区選出 赤山英太郎君</p> <p>第三区選出 三ツ林弥太郎君 青木 正久君</p> <p>第四区選出 沢田 広君</p> <p>第五区選出 和村 晴君 中村 寅男君 高次 寅男君</p> <p>第六区選出 柿澤 弘治君 天野 公義君</p> <p>第七区選出 小澤 深君 大野 深君</p> <p>第八区選出 鳩山 邦夫君 金子 満広君</p>	<p>第四区選出 友納 武人君 森田 景一君</p> <p>東京都 第一区選出 与謝野 馨君 木内 良明君</p> <p>第二区選出 石原慎太郎君 鈴切 康雄君 岡崎万寿秀君</p> <p>第三区選出 越智 通雄君 小坂徳三郎君</p> <p>第四区選出 粕谷 茂君 松本 善明君 大久保直彦君</p> <p>第五区選出 金子 隆君 池田 克也君</p> <p>第六区選出 高橋 一郎君 金子 みつ君</p> <p>第七区選出 有島 重武君</p> <p>第八区選出 菅 直人君 工藤 晃君 深谷 隆司君</p>	<p>第九区選出 中島 武敏君 浜野 剛君</p> <p>第十区選出 竹入 義勝君 島村 宜伸君 佐藤 祐弘君</p> <p>第十一区選出 石渡 照久君 山花 貞夫君 岩佐 惠美君</p> <p>神奈川県 第一区選出 小此木彦三郎君 伊藤 茂君</p> <p>第二区選出 小泉純一郎君 田川 誠一君 中路 雅弘君</p> <p>第三区選出 橋本 文彦君 甘利 明君</p> <p>第四区選出 大出 俊君 草野 威君</p> <p>第五区選出 亀井 善之君 河村 勝君</p> <p>新潟県 第一区選出 小沢 辰男君 関山 信之君</p>	<p>第二区選出 佐藤 隆君 稲葉 修君</p> <p>第三区選出 坂上 富男君 桜井 新君</p> <p>第四区選出 高島 修君</p> <p>富山県 第一区選出 安田 修三君</p> <p>第二区選出 綿貫 民輔君 木間 章君</p> <p>石川県 第一区選出 森 喜朗君</p> <p>第二区選出 瓦 力君</p> <p>福井県選出 牧野 隆守君 福田 一君</p> <p>山梨県選出 金丸 信君 中尾 栄一君 上田 利正君</p> <p>長野県 第一区選出 若林 正俊君 小坂善太郎君</p> <p>第二区選出 羽田 孜君 中村 茂君</p>	<p>第二区選出 渡辺 紘三君</p> <p>第三区選出 渡辺 秀央君 村山 達雄君</p> <p>白川 勝彦君</p> <p>玉生 孝久君</p> <p>片岡 清一君</p> <p>奥田 敬和君</p> <p>坂本三十次君</p> <p>辻 一彦君 平泉 涉君</p> <p>堀内 光雄君 田邊 國男君</p> <p>清水 勇君</p> <p>井出 正一君</p>
---	--	--	--	---	---

<p>第三区選出 宮下 創平君 中島 衛君</p> <p>第四区選出 小川 元君 申原 義直君</p> <p>唐沢俊二郎君 村井 仁君</p> <p>小沢 貞孝君</p> <p>岐阜県 第一区選出 大野 明君 武藤 嘉文君</p> <p>松田 岩夫君 松野 幸泰君</p> <p>伏屋 修治君</p> <p>第二区選出 渡辺 栄一君 金子 一義君</p> <p>古屋 亨君 山下八洲夫君</p> <p>静岡県 第一区選出 大石 千八君 原田昇左右君</p> <p>松前 仰君 藪仲 義彦君</p> <p>戸塚 進也君</p> <p>第二区選出 杉山 憲夫君 栗原 祐幸君</p> <p>斉藤斗志二君 前島 秀行君</p> <p>木部 佳昭君</p> <p>第三区選出 柳沢 伯夫君 熊谷 弘君</p> <p>安倍 基雄君</p> <p>愛知県 第一区選出 今枝 敬雄君 柴田 弘君</p> <p>春日 一幸君 田中美智子君</p>	<p>第二区選出 丹羽 兵助君 久野 忠治君</p> <p>第三区選出 青山 丘君 草川 昭三君</p> <p>海部 俊樹君 江崎 真澄君</p> <p>佐藤 鶴樹君</p> <p>第四区選出 伊藤 英成君 浦野 悠興君</p> <p>杉浦 正健君 稲垣 実男君</p> <p>第五区選出 村田敬次郎君 上村千一郎君</p> <p>早川 勝君</p> <p>第六区選出 塚本 三郎君 片岡 武司君</p> <p>石田幸四郎君 安藤 巖君</p> <p>三重県 第一区選出 川崎 二郎君 山本 幸雄君</p> <p>北川 正恭君 坂口 力君</p> <p>伊藤 忠治君</p> <p>第二区選出 田村 元君 藤波 孝生君</p> <p>角屋堅次郎君 野呂 昭彦君</p> <p>滋賀県選出 武村 正義君 山下 元利君</p> <p>宇野 宗佑君 野口 幸一君</p> <p>川端 達夫君</p> <p>京都府 第一区選出 奥田 幹生君 伊吹 文明君</p> <p>竹内 勝彦君 藤原ひろ子君</p> <p>永末 英一君</p>	<p>第二区選出 寺前 巖君 野中 広務君</p> <p>谷垣 禎一君 西中 清君</p> <p>玉置 一弥君</p> <p>大阪府 第一区選出 小谷 輝二君 正森 成二君</p> <p>大矢 卓史君</p> <p>第二区選出 中山 正暉君 浅井 美幸君</p> <p>東中 光雄君 左近 正男君</p> <p>中村 正雄君</p> <p>第三区選出 原田 意君 井上 一成君</p> <p>近江巳記夫君 村上 弘君</p> <p>中野 寛成君</p> <p>第四区選出 塩川正十郎君 上田 卓三君</p> <p>矢野 絢也君 経塚 幸夫君</p> <p>第五区選出 中山 太郎君 藤田 スミ君</p> <p>西村 章三君</p> <p>第六区選出 左藤 恵君 矢追 秀彦君</p> <p>石井 郁子君</p> <p>第七区選出 中村 正男君 北川 石松君</p> <p>春田 重昭君</p> <p>兵庫県 第一区選出 石井 一君 渡部 一郎君</p>	<p>浦井 洋君 河上 民雄君</p> <p>砂田 重民君</p> <p>第二区選出 原 健三郎君 冬柴 鉄三君</p> <p>土井たか子君 鴻池 祥肇君</p> <p>堀 昌雄君</p> <p>第三区選出 井上 喜一君 渡海紀三朗君</p> <p>永井 孝信君</p> <p>第四区選出 松本 十郎君 河本 敏夫君</p> <p>戸井田三郎君 新井 彬之君</p> <p>第五区選出 谷 洋一君 佐々木良作君</p> <p>奈良県選出 奥野 誠亮君 前田 武志君</p> <p>森本 晃司君 辻 第一君</p> <p>吉田 之久君</p> <p>和歌山県 第一区選出 中西 啓介君 坂井 弘一君</p> <p>野間 友一君</p> <p>第二区選出 二階 俊博君 東 力君</p> <p>鳥取県選出 平林 鴻三君 相沢 英之君</p> <p>野坂 浩賢君 石破 茂君</p> <p>島根県選出 竹下 登君 櫻内 義雄君</p> <p>細田 吉藏君 石橋 大吉君</p> <p>吉原 米治君</p>
---	--	--	---

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一) 召集に応じた議員の氏名

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一) 召集に応じた議員の氏名 指定された議席

岡山県

第一区選出

江田 五月君 逢沢 一郎君
大村 襄治君 平沼 赳夫君
日笠 勝之君

第二区選出

加藤 六月君 橋本龍太郎君
林 保夫君 水田 稔君
貝沼 次郎君

広島県

第一区選出

粟屋 敏信君 岸田 文武君
大原 亨君

第二区選出

谷川 和穂君 増岡 博之君
中川 秀直君 池田 行彦君

第三区選出

亀井 静香君 宮澤 喜一君
佐藤 守良君 古川 雅司君
岡田 正勝君

山口県

第一区選出

安倍晋太郎君 林 義郎君
田中 龍夫君 浜西 鉄雄君

第二区選出

吹田 悞君 佐藤 信二君
高村 正彦君 吉井 光照君
小澤 克介君

徳島県選出

後藤田正晴君 遠藤 和良君
森下 元晴君 井上 普方君

香川県

第一区選出

藤本 孝雄君 三野 優美君
木村 義雄君

第二区選出

森田 一君 大野 功統君
月原 茂皓君

愛媛県

第一区選出

関谷 勝嗣君 塩崎 潤君
井上 和久君

第二区選出

越智 伊平君 村上誠一郎君
森 清君

第三区選出

西田 司君 今井 勇君
田中 恒利君

福岡県

第一区選出

山崎 拓君 榑崎弥之助君
太田 誠一君 神崎 武法君
河野 正君

第二区選出

麻生 太郎君 多賀谷真稔君
北橋 健治君 三原 朝彦君
大橋 敏雄君

第三区選出

古賀 正浩君 古賀 誠君
細谷 治嘉君 権藤 恒夫君

山崎平八郎君

第四区選出

自見庄三郎君 鍛冶 清君
尾形 智矩君 中西 續介君

佐賀県選出

大坪健一郎君 保利 耕輔君
山下 徳夫君 愛野興一郎君
緒方 克陽君

長崎県

第一区選出

西岡 武夫君 倉成 正君
田口 健二君 小淵 正義君
久間 章生君

第二区選出

金子原二郎君 石橋 政嗣君
松田 九郎君 虎島 和夫君

熊本県

第一区選出

野田 毅君 魚住 汎英君
北口 博君 沼川 洋一君
松野 頼三君

第二区選出

園田 博之君 福島 譲二君
東家 嘉幸君 馬場 昇君

大分県

第一区選出

村山 富市君 畑 英次郎君
木下敬之助君 衛藤征士郎君

第二区選出

田原 隆君 佐藤 文生君
阿部末喜男君

宮崎県

第一区選出

江藤 隆美君 米沢 隆君
大原 一三君

第二区選出

堀之内久男君 中山 成彬君
持永 和見君

鹿児島県

第一区選出

長野 祐也君 宮崎 茂一君
川崎 寛治君 新盛 辰雄君
小里 貞利君 村山 喜一君
有馬 元治君

第二区選出

山中 貞則君 二階堂 進君
奄美群島区選出 保岡 興治君

第三区選出

上原 康助君 宮里 松正君
玉城 栄一君 瀬長亀次郎君

沖縄県選出

指定された議席

指定された議席

九 八 七 六 五 四 三 二 一
田中 慶秋君 伊藤 英成君 岡崎万寿秀君 佐藤 祐弘君 矢島 恒夫君 北橋 健治君 大矢 卓史君 石井 郁子君 児玉 健次君

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一) 指定された議席

一〇	経塚 幸夫君	四二	河村 勝君	七四	伏屋 修治君	一〇六	近江巳記夫君
一一	岩佐 惠美君	四三	阿部 昭吾君	七五	柴田 弘君	一〇七	矢追 秀彦君
一二	藤田 スミ君	四四	榎崎弥之助君	七六	田並 胤明君	一〇八	坂井 弘一君
一三	安倍 基雄君	四五	小沢 貞孝君	七七	吉田 之久君	一〇九	戸田 菊雄君
一四	滝沢 幸助君	四六	中村 正雄君	七八	玉城 栄一君	一一〇	村山 富市君
一五	辻 第一君	四七	春日 一幸君	七九	吉浦 忠治君	一一一	正木 良明君
一六	藤原ひろ子君	四八	佐々木良作君	八〇	春田 重昭君	一一二	大野 潔君
一七	安藤 巖君	四九	永末 英一君	八一	池田 克也君	一一三	長田 武士君
一八	中路 雅弘君	五〇	塚本 三郎君	八二	竹内 勝彦君	一一四	市川 雄一君
一九	木下敬之助君	五一	川端 達夫君	八三	古川 雅司君	一一五	伏木 和雄君
二〇	小淵 正義君	五二	井上 和久君	八四	小野 信一君	一一六	渡部 一郎君
二一	柴田 睦夫君	五三	冬柴 鉄三君	八五	鼓仲 義彦君	一一七	馬場 昇君
二二	田中美智子君	五四	日笠 勝之君	八六	草野 威君	一一八	嶋崎 譲君
二三	正森 成二君	五五	塚田 延充君	八七	武田 一夫君	一一九	竹内 猛君
二四	野間 友一君	五六	遠藤 和良君	八八	平石磨作太郎君	一二〇	大久保直彦君
二五	浦井 洋君	五七	水谷 弘君	八九	貝沼 次郎君	一二一	浅井 美幸君
二六	岡田 正勝君	五八	森本 晃司君	九〇	草川 昭三君	一二二	石田幸四郎君
二七	玉置 一弥君	五九	橋本 文彦君	九一	辻 一彦君	一二三	川俣健二郎君
二八	山原健二郎君	六〇	林 保夫君	九二	木間 章君	一二四	河上 民雄君
二九	工藤 晃君	六一	中村 巖君	九三	藤原 房雄君	一二五	稲葉 誠一君
三〇	寺前 巖君	六二	斉藤 節君	九四	鳥居 一雄君	一二六	矢野 詢也君
三一	東中 光雄君	六三	小谷 輝二君	九五	新井 彬之君	一二七	竹入 義勝君
三二	中島 武敏君	六四	沼川 洋一君	九六	西中 清君	一二八	田邊 誠君
三三	青山 丘君	六五	和田 一仁君	九七	坂口 力君	一二九	村山 喜一君
三四	米沢 隆君	六六	山田 英介君	九八	権藤 恒夫君	一三〇	大原 亨君
三五	西村 章三君	六七	森田 景一君	九九	山花 貞夫君	一三一	角屋堅次郎君
三六	中野 寛成君	六八	吉井 光照君	一〇〇	小川 国彦君	一三二	前島 秀行君
三七	村上 弘君	六九	木内 良明君	一〇一	小川 新一郎君	一三三	早川 勝君
三八	金子 満広君	七〇	神崎 武法君	一〇二	大橋 敏雄君	一三四	緒方 克陽君
三九	不破 哲三君	七一	神田 厚君	一〇三	有島 重武君	一三五	
四〇	松本 善明君	七二	鍛冶 清君	一〇四	鈴切 康雄君	一三六	中沢 健次君
四一	瀬長亀次郎君	七三	宮地 正介君	一〇五	二見 伸明君	一三七	石橋 大吉君

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一) 指定された議席

一三八	三野 優美君
一三九	上田 利正君
一四〇	
一四一	田口 健二君
一四二	沢藤礼次郎君
一四三	坂上 富男君
一四四	小澤 克介君
一四五	
一四六	山下八洲夫君
一四七	左近 正男君
一四八	松前 仰君
一四九	伊藤 忠治君
一五〇	関山 信之君
一五一	木村 守男君
一五二	中村 正男君
一五三	佐藤 徳雄君
一五四	奥野 一雄君
一五五	菅 直人君
一五六	浜西 鉄雄君
一五七	牧野 隆守君
一五八	永井 孝信君
一五九	城地 豊司君
一六〇	安田 修三君
一六一	串原 義直君
一六二	江田 五月君
一六三	五十嵐広三君
一六四	大原 一三君
一六五	友納 武人君

一六六	池端 清一君
一六七	渋谷 利久君
一六八	新盛 辰雄君
一六九	田中 恒利君
一七〇	水田 稔君
一七一	上田 卓三君
一七二	戸塚 進也君
一七三	菊池福治郎君
一七四	井上 一成君
一七五	野口 幸一君
一七六	伊藤 茂君
一七七	吉原 米治君
一七八	中西 續介君
一七九	渡部 行雄君
一八〇	志賀 節君
一八一	大石 千八君
一八二	野坂 浩賢君
一八三	沢田 広君
一八四	新村 勝雄君
一八五	岩垂寿喜男君
一八六	上田 哲君
一八七	加藤 万吉君
一八八	高沢 寅男君
一八九	水野 清君
一九〇	村田敬次郎君
一九一	左藤 恵君
一九二	中村 茂君
一九三	上坂 昇君

一九四	佐藤 観樹君
一九五	上原 康助君
一九六	小林 恒人君
一九七	阿部未喜男君
一九八	清水 勇君
一九九	佐藤 敬治君
二〇〇	田川 誠一君
二〇一	森下 元晴君
二〇二	内海 英男君
二〇三	山下 元利君
二〇四	井上 泉君
二〇五	井上 普方君
二〇六	川崎 寛治君
二〇七	河野 正君
二〇八	武藤 山治君
二〇九	大出 俊君
二一〇	山口 鶴男君
二一一	多賀谷貞稔君
二一二	原 健三郎君
二一三	広瀬 秀吉君
二一四	細谷 治嘉君
二一五	堀 昌雄君
二一六	金子 みつ君
二一七	岡田 利春君
二一八	土井たか子君
二一九	安井 吉典君
二二〇	石橋 政嗣君
二二一	逢沢 一郎君

二二二	村上誠一郎君
二二三	片岡 武司君
二二四	木村 義雄君
二二五	鴻池 祥肇君
二二六	魚住 汎英君
二二七	井出 正一君
二二八	小川 元君
二二九	遠藤 武彦君
二三〇	石渡 照久君
二三一	杉山 憲夫君
二三二	虎島 和夫君
二三三	宮里 松正君
二三四	持永 和見君
二三五	伊吹 文明君
二三六	柳沢 伯夫君
二三七	月原 茂皓君
二三八	若林 正俊君
二三九	尾身 幸次君
二四〇	平林 鴻三君
二四一	小杉 隆君
二四二	栗山 明君
二四三	田原 隆君
二四四	保利 耕輔君
二四五	鳩山 邦夫君
二四六	森田 一君
二四七	吹田 愷君
二四八	玉生 孝久君
二四九	戸沢 政方君

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一) 指定された議席

二五〇	大坪健一郎君	二七八	藤本 孝雄君	三〇六	大島 理森君	三三四	北川 石松君
二五一	村岡 兼造君	二七九	宇野 宗佑君	三〇七	加藤 卓二君	三三五	渡部 恒三君
二五二	林 大幹君	二八〇	竹下 登君	三〇八	榎本 和平君	三三六	小里 貞利君
二五三	中村喜四郎君	二八一	近藤 鉄雄君	三〇九	小渡 三郎君	三三七	熊川 次男君
二五四	高村 正彦君	二八二	稻村 利幸君	三一〇	今枝 敬雄君	三三八	中山 正輝君
二五五	大塚 雄司君	二八三	唐沢俊二郎君	三一一	松田 九郎君	三三九	片岡 清一君
二五六	石川 要三君	二八四	綿貫 民輔君	三一二	太田 誠一君	三四〇	宮崎 茂一君
二五七	有馬 元治君	二八五	三ッ林弥太郎君	三一三	甘利 明君	三四一	中山 利生君
二五八	加藤 紘一君	二八六	山下 徳夫君	三一四	浦野 然興君	三四二	青木 正久君
二五九	糸山英太郎君	二八七	加藤 六月君	三一五	丹羽 雄哉君	三四三	藤波 孝生君
二六〇	北口 博君	二八八	塩川正十郎君	三一六	近藤 元次君	三四四	安倍晋太郎君
二六一	田名部匡省君	二八九	栗原 祐幸君	三一七	白川 勝彦君	三四五	伊東 正義君
二六二	谷垣 禎一君	二九〇	田村 元君	三一八	上草 義輝君	三四六	瓦 力君
二六三	山崎 拓君	二九一	金丸 信君	三一九	中島 衛君	三四七	石原慎太郎君
二六四	三塚 博君	二九二	中曾根康弘君	三二〇	白井日出男君	三四八	武藤 嘉文君
二六五	愛野興一郎君	二九三	渡海紀三朗君	三二一	桜井 新君	三四九	箕輪 登君
二六六	中島源太郎君	二九四	新井 将敏君	三二二	古賀 誠君	三五〇	谷川 和穂君
二六七	粕谷 茂君	二九五	北村 直人君	三二三	鹿野 道彦君	三五一	大野 明君
二六八	梶山 静六君	二九六	三原 朝彦君	三二四	津島 雄二君	三五二	山村新治郎君
二六九	石井 一君	二九七	二田 孝治君	三二五	池田 行彦君	三五三	宮澤 喜一君
二七〇	越智 伊平君	二九八	前田 武志君	三二六	与謝野 馨君	三五四	後藤田正晴君
二七一	増岡 博之君	二九九	江口 一雄君	三二七	中村正三郎君	三五五	倉成 正君
二七二	佐藤 守良君	三〇〇	松田 岩夫君	三二八	亀井 静香君	三五六	橋本龍太郎君
二七三	中山 太郎君	三〇一	村井 仁君	三二九	熊谷 弘君	三五七	天野 光晴君
二七四	塩谷 一夫君	三〇二	栗屋 敏信君	三三〇	佐藤 信二君	三五八	葉梨 信行君
二七五	佐藤 隆君	三〇三	高橋 一郎君	三三一	堀之内久男君	三五九	坂本三十次君
二七六	浜田 幸一君	三〇四	岡島 正之君	三三二	原田昇左右君	三六〇	奥野 誠亮君
二七七	小此木彦三郎君	三〇五	中川 昭一君	三三三	石橋 一弥君	三六一	鯨岡 兵輔君

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一) 指定された議席

三六二	村山 達雄君
三六三	藤尾 正行君
三六四	渡辺 栄一君
三六五	田澤 吉郎君
三六六	小沢 辰男君
三六七	海部 俊樹君
三六八	山中 貞則君
三六九	
三七〇	田中 龍夫君
三七一	原田 憲君
三七二	長谷川 峻君
三七三	久野 忠治君
三七四	櫻内 義雄君
三七五	小坂善太郎君
三七六	江崎 真澄君
三七七	松野 頼三君
三七八	河本 敏夫君
三七九	福永 健司君
三八〇	鈴木 善幸君
三八一	福田 赳夫君
三八二	鳩山由紀夫君
三八三	大石 正光君
三八四	斉藤斗志二君
三八五	中山 成彬君
三八六	尾形 智矩君
三八七	大野 功統君
三八八	谷津 義男君
三八九	佐藤 敬夫君

三九〇	穂積 良行君
三九一	野呂 昭彦君
三九二	鈴木 宗男君
三九三	自見庄三郎君
三九四	北川 正恭君
三九五	町村 信孝君
三九六	浜田卓二郎君
三九七	笹山 登生君
三九八	久間 章生君
三九九	麻生 太郎君
四〇〇	平沼 赳夫君
四〇一	長野 祐也君
四〇二	船田 元君
四〇三	西田 司君
四〇四	宮下 創平君
四〇五	奥田 幹生君
四〇六	野呂田芳成君
四〇七	椎名 素夫君
四〇八	堀内 光雄君
四〇九	玉沢徳一郎君
四一〇	中村 靖君
四一一	関谷 勝嗣君
四一二	深谷 隆司君
四一三	越智 通雄君
四一四	愛知 和男君
四一五	塚原 俊平君
四一六	戸井田三郎君
四一七	相沢 英之君

四一八	谷 洋一君
四一九	福島 讓二君
四二〇	松本 十郎君
四二一	竹中 修一君
四二二	稲垣 実男君
四二三	染谷 誠君
四二四	野中 英二君
四二五	今井 勇君
四二六	阿部 文男君
四二七	松永 光君
四二八	羽田 孜君
四二九	小沢 一郎君
四三〇	中尾 栄一君
四三一	高島 修君
四三二	西岡 武夫君
四三三	山本 幸雄君
四三四	田邊 國男君
四三五	小坂徳三郎君
四三六	砂田 重民君
四三七	平泉 渉君
四三八	塩崎 潤君
四三九	田村 良平君
四四〇	森 美秀君
四四一	江藤 隆美君
四四二	渡辺美智雄君
四四三	伊藤宗一郎君
四四四	竹内 黎一君
四四五	小宮山重四郎君

四四六	小淵 恵三君
四四七	松野 幸泰君
四四八	古屋 亨君
四四九	佐藤 文生君
四五〇	大村 襄治君
四五一	丹羽 兵助君
四五二	齋藤 邦吉君
四五三	亀岡 高夫君
四五四	細田 吉藏君
四五五	上村千一郎君
四五六	天野 公義君
四五七	赤城 宗徳君
四五八	福田 一君
四五九	二階堂 進君
四六〇	稲葉 修君
四六一	三木 武夫君
四六二	坂田 道太君
四六三	金子 一義君
四六四	園田 博之君
四六五	佐藤 静雄君
四六六	石破 茂君
四六七	笹川 堯君
四六八	武村 正義君
四六九	古賀 正浩君
四七〇	鈴木 恒夫君
四七一	武部 勤君
四七二	東 力君
四七三	金子原二郎君

四七四	額賀福志郎君
四七五	杉浦 正健君
四七六	井上 喜一君
四七七	亀井 善之君
四七八	田中 直紀君
四七九	二階 俊博君
四八〇	川崎 二郎君
四八一	野中 広務君
四八二	近岡理一郎君
四八三	渡辺 省一君
四八四	島村 宜伸君
四八五	柿澤 弘治君
四八六	中西 啓介君
四八七	衛藤征士郎君
四八八	中川 秀直君
四八九	高橋 辰夫君
四九〇	工藤 巖君
四九一	森 清君
四九二	浜野 剛君
四九三	岸田 文武君
四九四	小澤 潔君
四九五	東家 嘉幸君
四九六	畑 英次郎君
四九七	
四九八	佐藤 孝行君
四九九	佐藤 一郎君
五〇〇	渡辺 紘三君
五〇一	小泉純一郎君

五〇二	野田 毅君
五〇三	保岡 興治君
五〇四	渡辺 秀央君
五〇五	河野 洋平君
五〇六	山口 敏夫君
五〇七	田中 角榮君
五〇八	森 喜朗君
五〇九	林 義郎君
五一〇	木部 佳昭君
五一一	山崎平八郎君
五一二	奥田 敬和君

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一) 指定された議席

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(一)

明治二十五年三月三十一日
第三種郵便物認可

官報

号外 昭和六十二年十一月六日

○国 第一百十回 衆議院會議録 第一号(二)

昭和六十二年十一月六日(金曜日)

開会式

午後零時五十八分 参議院議長、衆議院参議院の副議長、常任委員長、特別委員長、参議院の調査会長、衆議院参議院の議員、内閣総理大臣その他の國務大臣、最高裁判所長官及び会計検査院長は、式場である参議院議場に入り、所定の位置に着いた。

午後一時 皇太子明仁親王殿下は、衆議院議長の前で行で式場に入れられ、お席に着かれた。

衆議院議長は、次の式辞を述べた。

天皇陛下の御名代として

皇太子明仁親王殿下の御臨席をいただき、第一百十回国会の開会式を行うにあたり、衆議院及び参議院を代表して、式辞を申し上げます。

現下わが国をめぐる内外の情勢はきわめて多端であります。

このときにあたり、われわれはすみやかに新内閣の成立を期し、諸般の態勢を整え、もつて内政、外交に万全の方策を講じなければなりません。

ここに、開会式にあたり、われわれに負荷された重大な使命にかんがみ、日本国憲法の精神を体し、おのおの最善をつくしてその任務を遂行し、もつて国民の委託にこたえようとするものであります。

次いで、天皇陛下の次のおことばを

皇太子明仁親王殿下から賜った。

本日、第一百十回国会の開会式に当たり、この席に親しく臨めないことを、誠に残念に思います。

国会が、国権の最高機関として、当面する内外の課題に対処し、その使命を遺憾なく果たし、国民の信託にこたえることを切に望みます。

衆議院議長は、おことば書をお受けした。

午後一時五分 皇太子明仁親王殿下は、参議院議長の前で行で式場を出られた。

次いで、一同は式場を出た。

午後一時六分式を終わる

昭和六十二年十一月六日 衆議院會議録第一号(二)

明治二十五年(即三十一日)
第三種郵便物認可

発行所

〒105

東京都港区虎ノ門二丁目二番四号
大蔵省印刷局

官報課
電話 三(三)五〇三

一定価一〇円部